

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2024年3月1日

事業所名 スマイルTHREE

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			部屋は十分広く、利用人数に応じて活用している。
	2	職員の配置数は適切である	○			加配の職員も必要に応じて配置しており、適切な人数での見守りができている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			段差はなく、必要に応じて踏み台を設置している。トイレにも手すりがついている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			毎月職員間で実施できており、出てきた案を元に統一した支援に取り組んでいる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケート調査を実施し、職員間で共有することで改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開しており、常時確認できるようになっている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後積極的に取り組んでいきたい。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			障がいへの理解を深める為の研修やSST研修(web)に積極的に参加している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			定期的に保護者に聞き取りを行い、支援者間で共有した事項を元にニーズに合わせた計画書を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			保護者から聞き取りした情報をアセスメントシートに記入し、都度全体で確認している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			現場の支援者中心に1か月ごとに活動内容を協議し決定している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			同じ内容にならないよう毎月見直している。過去に実施したものと類似している時は取り組み方を変更している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇時は主な活動以外の活動を組み込むようにしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			1人1人のニーズや課題に応じて個別での取り組みや活動を実施している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			活動の実施担当者は必ず担当を決め、担当者以外の職員でフォローや現場の見守り等事前に分担している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			日々の業務終了後に終礼を実施し、共有事項を確認するようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援経過記録を日々記録し共有、振り返りを都度行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的に保護者に聞き取りを行い、指導員間で共有している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			支援を行う際に改めて確認、新しい職員にも周知している。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者、児童指導員代表1名が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		連携が特に必要な児童の学校では定期的に行っているが、事業所の方からより積極的に連携をはかっていく必要がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	実施実績なし。今後対象児童を受け入れていく場合は連携していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要時に児童の様子や事業所での取り組み等共有し、連携体制の強化を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	対象年齢に達する児童が現時点でいない為実施実績なし。今後積極的に行っていききたい。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	積極的な連携はできていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	実施実績なし。今後対象児童を受け入れていく場合は連携していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		旭区事業所連絡会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の様子は送迎時や連絡帳でこまめに報告し、必要時は保護者より聞き取りの時間を設け、支援の方向性がニーズとずれがないか確認している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	実施実績なし。まずペアレント・トレーニングの支援ができるよう職員のスキルアップを目指していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時には十分な時間を確保し、保護者に理解しやすい形で説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要な場合家庭連携時時に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者同士が交わる機会を設定できていない為、今後取り入れていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情の申し入れがあった際には真摯に受け止め、再発防止、改善に努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ブログを週に一回更新し、事業所内での取り組みや活動について発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		事業所外に漏洩することがないように、徹底して管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		一人一人の特性に応じて絵カードや文字を活用して伝えるようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	実施実績なし。機会を設けていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			保護者には契約時に周知している。職員にも都度共有しマニュアルの読み合わせをしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に集団活動で避難訓練を組み込み、行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年一回虐待防止研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			保護者には契約時に説明している。身体拘束については、現在対応しているケースはないが、どのような時行うか指導員に研修を実施している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			事前に保護者に聞き取りを行い、該当児童にはおやつや調理プログラムの際配慮して提供している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			随時作成し、再発防止に向け都度職員間で共有、防止策を検討し実行している。